

産業用半導体メーカーにて一去っていく若手社員達

森 均

産業用半導体メーカーに入社して1年目の11月、私はメッキ用の大型直流電源の設計を主に担当していました。いつものように午後10時過ぎに仕事を終えて「お先に失礼します」と言って設計部の部屋を出ましたが、翌朝7時30分に出勤すると、課長と係長が昨夜の姿のまま仕事をしていました。徹夜したのです。納期が間に合わないときや技術的な問題が生じ予定どおりに業務が進まないときなど3日間徹夜する社員がいましたが、このときは管理職が徹夜していました。

社員も毎日12時間労働で疲労困憊でしたが、管理職が徹夜する姿を見て、当初はすごい！と思ったもののしばらくすると”蟻地獄”にはまったような感覚におそわれました。

その感覚は私だけではなかったと思います。若い社員が一人、また一人と退職していきます。ある人は、大企業に転職、ある人は故郷の企業にと……。私もそのひとりですが……。

さて話しは飛躍しますが、教員の世界もようやく働き方改革が叫ばれるようになり、2017年度版文部科学白書においても「教師の負担軽減は喫緊の課題」と指摘されています。学校においてもICT化がその一つ的手段と見なされていたところ、コロナウイルスの感染拡大に伴い、政府はその経済的な対応として「GIGAスクール構想」を前倒して実施する方針を示しました。児童・生徒に「1人1台端末」の整備はこれまで2023年度の達成を目標としていましたが、補正予算に端末整備等に係る予算を計上し、「1人1台端末」や在宅オンライン学習に必要な通信環境の整備等を加速する考えです。学校側も「GIGAスクール構想」の実現に向けて早急に対応が求められていて、コンピュータシステムやネット環境等に詳しい教員（以下、情報機器管理担当教員と表記します）にそのしわ寄せが及んでいるのではないのでしょうか。ボタンを一つ押せば簡単に実現できる、そのことには情報機器管理担当教員の努力があることを忘れてはなりません。あるシステムが構築できて運用がスムーズにスタートできたとしてもソフト上のトラブル、ハード的なトラブル、教員の無理解や無節操なやり方によるトラブル等々……。その都度、その原因を突き止め改修しシステムの運用を維持しているのは情報機器管理担当教員です。授業やその準備、部活の顧問をやりながらだと思います。

年輩の教員や管理職ほど、コンピュータシステム等はブラックボックス化していて“ボタン一つでできて当たり前”と思っていませんか。情報機器管理担当教員にとって周囲の教員の無理解は”蟻地獄”かもしれないのです。一般教員も管理職も情報機器管理担当教員の苦勞を深く認識し、情報機器管理担当教員に「ありがとう」という慰勞の言葉を忘れないようお願いしたいと思います。

情報機器管理担当教員が突然皆さんの勤務校からいなくなればどうなるのでしょうか。一度想像してみてください。

(もり・ひとし 特任教授/教員養成センター)